

第11回独立行政法人契約監視委員会

平成30年6月
独立行政法人経済産業研究所

1. 日時

平成30年5月24日(木)15:00～16:30

2. 場所

独立行政法人経済産業研究所会議室

3. 出席者

(1) 委員

白山委員長、向委員、八田監事、鈴木監事

(2) 独立行政法人経済産業研究所

中島理事長、岸本理事、野澤総務副ディレクター、齋木総務専門職

4. 議事

(1) 開催挨拶: 中島理事長

(2) 経済産業研究所の契約状況について

・平成29年度の契約内容及び契約方式の状況

5. 概要

(1) 開催挨拶

冒頭、中島理事長から開催挨拶が行われた。

(2) 経済産業研究所の契約状況について、事務局から説明後、質疑が行われた(主な質疑については別紙参照)。なお、個別の契約に対する指摘はなかった。

質問・意見	回答
<p>■競争性のない随意契約理由及び契約価格の妥当性 <情報システム関連> <平成 29 年度「研究調整情報管理システムの改修」に係る役務請負契約></p>	
<ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年に改定された独法の評価指針に基づき新たに導入した指標の対応のための改修ということだが、それ以外の大きな要因はあったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務方としては、その他にも改修したい部分もあったが、予算の関係もありメインは評価指針に関連する改修とした。
<p><他機関との共同研究> <「平成 29 年度調査研究」に係る共同研究契約></p>	
<ul style="list-style-type: none"> この契約の金額はどのように算出されているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 契約額については、契約先が研究に携わる人件費、出張費、資料購入費等を積算したものと所内で管理する予算額と照らし合わせるとともに、契約先から提示された金額の妥当性をチェックし契約金額を設定している。 当該契約は概算での契約となっており、事業終了時に全ての人件費を含めた経費の支出に伴う証憑類に関する検査（確定検査）を実施し、資料（出勤簿・支出帳票類）確認をした上で、（支出されていない費用は）減額している。
<p>■一者応札・応募となったものの状況 <広報（年次報告書）等> <「平成 28 年度 RIETI 年次報告書・デザイン・印刷業務」請負契約></p>	
<ul style="list-style-type: none"> ここ数年同じ業者が落札しているが、予定価格は適正か。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定価格は工数、ページ数、印刷費用など、年報のボリューム等を勘案し、全国の印刷料金の平均単価を掲載する図書を参考に積算している。また、金額だけではなく、総合評価落札方式で、写真の技術力の確認のため色合いなど適切な補正が対応可能か否か等確認をしている。

	<ul style="list-style-type: none"> 過去の仕様書において説明が不明確な事案があったため、仕様書の改訂を行った。しかし、公表されている過去の契約額に比べ大きな手間とコストがかかることが想定される事に加え、過去数年の業務経験のある業者との競合を敬遠されたのではないかと推測している。落札率は50～60%の間。 なお、30年度に実施した同様の入札は、説明会から参加締切りまで2ヶ月間とし、全省庁統一資格の等級の幅を広げるなどした結果、新規業者が落札した。
<p><データベース利用等> <平成30年「電子ジャーナル」役務請負契約></p>	
<ul style="list-style-type: none"> こちらは一度、不調になり再度入札を行っているが、不調になった初回の段階で参考見積もりは取らなかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 初回の入札の際も参考見積もりを聴取したが、予算の関係から参考見積もりの額ではなく前年の契約額を予定価格として採用し不調となった。その後不調となった要因を確認したところ為替レートの変動や雑誌の登録内容の増加等の変更が確認されたので、その状況を勘案し予定価格を再度設定した。しかしながら、年明けであったことや、今回不参加となった会社が初回の開札時に競合会社の入札額を知り得たことから落札の可能性が低いと判断され、結果一者応札となったのではないかと推測している。
<p><職員派遣契約> <派遣スタッフ募集（企画競争）></p>	
<ul style="list-style-type: none"> 現在は人の確保が深刻になっていて、企画競争などの手法での確保が難しくなっており、競争の確保も大事だが、このことにより失われるエネルギーや事務コストも考える必要があるのではないかと推測する。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去数年、職員派遣契約は年に数回行っているが、概ね複数応札の状況であった。しかしながら昨今の人手不足の深刻化や企画競争は、企業から見ると相対的に煩瑣と思われると推測する。 今後はより間口を広げ、声かけを強める等、一層の努力を行う。募集の時期も検討する。
<p><入札不調に係る件について></p>	

<ul style="list-style-type: none">入札が不調になると、入札に係る事務手続きのやり直しといった追加的なコストや時間もかかることは留意しておく必要があると思う。	<ul style="list-style-type: none">予定価格の設定に当たっては、過去の契約額を参考にするだけでなく、社会的状況など広範囲な変動要素も考慮し、しっかりリサーチをした上で設定することとし、引き続き入札参加を阻害する要因の排除に努める。
---	---